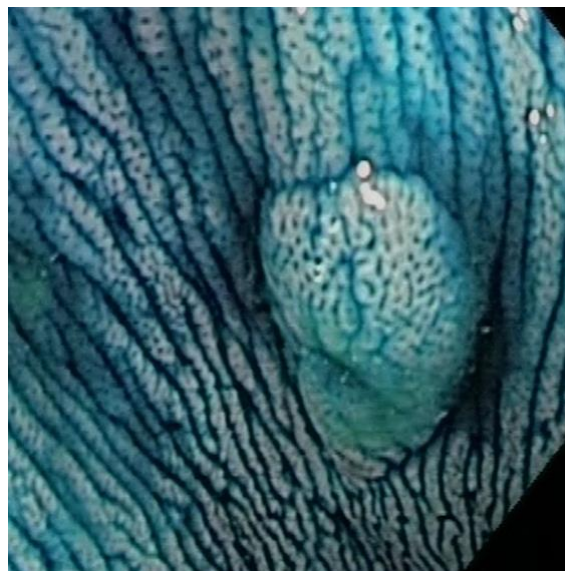


メチレンブルー経口徐放剤を用いた大腸内視鏡検査

大腸内視鏡検査の前処置として患者に青色の染色剤を含む錠剤を飲んでもらうことで、大腸ポリープの発見率が向上したとする第Ⅲ相多施設共同ランダム化比較試験の成績が明らかになり、詳細が米国消化器病週間（DDW）で発表されました。



染色剤は「Methylene Blue MMX」と呼ばれるメチレンブルーの経口徐放剤。



腺腫やポリープ、がんが見つかった患者の割合は、対象群の47.8%に対してメチレンブルー200mg群では56.3%でありました。また、メチレンブルー200mg群では対象群と比べて平坦な直径5mm未満の微小病変がより多く見つかりました。

さらに、メチレンブルー投与群では青色の便や尿の変色がみられましたが、それ以外の軽度の有害事象の発生率は6%未満でありました。

